

## 「平成23年度南丹地区人権教育指導者研修会」を開催しました！

2月2日（木）、ガレリアかめおかにおいて、人権教育指導者研修会を開催しました。当日は雪が降り気温も低い中ではありましたが、亀岡市、南丹市、京丹波町から249名の方々に参加いただきました。

### 講 演

演題 「つながり、ひろがる循環型の子育て支援の社会へ」

～互いに自己肯定感を高め合い元気になる関係づくり～

講師 NPO法人京都子育てネットワーク理事長 藤本 明美 様

#### ☆自己肯定感を高める

- ・本当に些細なことであっても、他の人から言葉で認めてもらったり、感謝を伝えられたりする経験が、各自の自己肯定感を高めていく。

#### ☆循環型の子育て支援の社会へ

- ・自分が他人からしてもらったことを、また他の人にしていくことの循環が大事。
- ・親になったことを契機に、人と出会い、人とつながり、「市民としての力」をつけていくことが大切。

#### ☆一人ひとりの「強み」を大事にする「促進型」の関わりを！

- ・「指導」「援助」も大切。相手が持っている長所、強み、情報、体験などを引き出す「促進」を強めることで、「指導」も「援助」もうまくいく。また、普段から、そうした人の見方が必要。



～講演後、質疑応答を交え、気付きや思いを共有するための対話交流会を行いました～

### 参加者の感想から（抜粋）

- ・循環型の子育ての輪が広がり、みんなが子育てに参加する社会（地域）になったら、素晴らしいですね。つながりの大切さ、十人十色の考え方や価値観を認めつつ、人間関係を上手に築いていくことに努力していきたいと思います。人の良い面（本来持っている強さ）を見つけて、人間関係を良い方向につなげていき、みんなで助け合える仲間作りが大切だと思いました。
- ・子どもの自己肯定感だけでなく、親の自己肯定感を育てていくこともとても重要なことだと感じました。親自身が、自分のことや自分の子どもを受け容れてもらったり、他人の役に立ったり、互いにいい影響を与え合える場や機会を、どのように作っていくかを考えていきたいと思いました。
- ・ワークショップで「強み」や「得意」を探すことが具体的でよく分かりました。実際の場面では、つい「弱み」や「不得手」に目がいってしまう日常を反省しました。「促進」という子育て支援の考えは、よく分かりました。このようなワークショップをもっと体験したいと思いました。
- ・「絆」という言葉の基盤が、本日の講演内容でもあると思いました。その基盤作りのための具体的な方法、在り方など、分かりやすく話してくださいました。お話の中にあつた「促進」の見方は、私の弱い部分でした。人権を大切にすることとは、「寄り添い」「理解し合う」ばかりではなく、一方では、人権を大切に社会を構築するためには、一人ひとりが「強くなる」ことも大切であると思います。弱い心であるために、暴力をふるったり虐待をしたりすることもある。一人ひとりが強い心を持つ環境づくりも大切ではないかと思っています。



